

## 美濃馬場と美濃禪定道

### 美濃馬場・白山本地中宮長滝寺の歩み

---

現在の郡上市白鳥町長滝におかれた美濃馬場・白山本地中宮長滝寺は、養老元年(717)に越の国(現在の福井市)の僧・泰澄が白山中宮を創建したことにはじまるとされます。その後、天平2年(730)に元正天皇が、本地十一面観音、聖観音、阿弥陀如来の三像を奉納したことから、白山本地中宮長滝寺と称するようになったと伝えられます。

長滝寺は、天長5年(828)に、法相宗から天台宗に改宗し、近国における総本山として勢力を増し、同寺の周辺には「6谷6院360坊」といわれるほどの塔頭や宿坊が立ち並んだと伝えられます。治安元年(1021)には後一条天皇の勅命で国家鎮護の祈禱をし、天台別院という高い格式を得ました。

美濃側からの白山への登拝拠点として、尾張・駿河方面からの登拝者たちを迎えたとされます。また、藤原秀衡が鐘楼を寄進したこと、足利尊氏が祈禱を依頼したことなどが記録されており、その時代の権力者の信仰も集めていたと推測されます。

明治元年(1868)の神仏分離令により、白山本地中宮長滝寺は、神を祀る長滝白山神社と、仏を祀る長瀧寺の2つに分離されました。明治32年(1899)には、濃州第一とうたわれた社殿仏閣は灰燼に帰しましたが、国指定重要文化財の釈迦三尊像などかつての白山信仰の栄華を伝える宝物等がいまに伝えられ、一部は龍宝殿や白山文化博物館で公開されています。

### 美濃禪定道

---

馬場から白山への登拝路のことを禪定道といいますが、美濃馬場を起点にする禪定道を美濃禪定道といえます。

美濃禪定道は、白山本地中宮長滝寺を起点に、床並社、桧峠を越え、白山中居神社へ。その後、美女下社、今冷泉社、石徹白大スギ、神鳩社から銚子ヶ峰、一ノ峰、二ノ峰、三ノ峰、南竜ヶ馬場、別山を経て白山へ至る道のこと、一般の登拝者が登った道だと伝えられます。

行者(山伏や修験者たち)が通った行者道は、白山本地中宮長滝寺から、一ノ宿、二ノ宿、三ノ宿、多和宿、国坂、泉ノ宿、中須、大日宿、カウハシを経て神鳩宿で禪定道と合流しました。

美濃禪定道は、3つの禪定道の中で最も登拝者が多かった道だとされます。その盛況さを示す言葉として「のぼり千人、くだり千人、ふもと千人」があります。史料からは、実際の登拝者はもっと少なかったと推測されますが、この道が、美濃・尾張方面からの多くの登拝者たちで賑わったことを思い起こさせます。

白山信仰の衰退とともに、美濃禪定道も荒廃しましたが、一部が復元されています。

---